

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>府民の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 「個を活かし、公に生きる」人間の育成</p> <p>2 「グローバルに活躍する」人間の育成</p> <p>3 感じる力、考える力、行動する力、向上する力、関わる力（5K力）の育成</p> <p>4 「学力の向上」と「希望進路の実現」の達成</p>	<p>(成果)</p> <p>1 京都大学5名、大阪大学5名をはじめ神戸大学4名、名古屋大学3名、京都工芸繊維大学5名、京都府立大学5名など、国公立大学に97名が合格し、関関同立には96名（のべ人数）が合格するなど、多数合格した。また、大阪大学の医学部医学科をはじめ、国公立の医学部医学科2名、私立大学の医学部医学科1名等、本校の進路指導の実績を積み上げることができた。</p> <p>2 探究活動を授業だけでなくキャリアプログラムと融合させて深い学びを実践し地域連携やキャリア教育につなげることはもちろん全国大会等での発表も行った。</p> <p>3 「スーパーサイエンスネットワーク京都」校の取組として、京都府北部の3校で地元地域において成果発表会を設けたり、他の発表会にも参加したりして交流を深めた。</p> <p>4 WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)事業の共同実施校としてスマートAPの連続講義等に積極的に参加し、イノベティブなグローバル人材育成の機会となった。</p> <p>5 部活動加入率は78%で文武両道を実践する者も多く、近畿大会や全国大会で活躍をする生徒もあった。</p> <p>6 進路指導では、授業を柱に面接指導、小論文指導、面談、にじゼミを含む講習等など、学年部と進路指導部、教科担当を中心に学校全体で取り組むことができた。</p> <p>(課題)</p> <p>1 中高一貫教育校のよさを活かし、教育活動の充実を図るとともに生徒たちの活動する姿を効果的に発信することで本校の魅力を伝え、生徒募集にもつなげていく。</p> <p>2 「主体的・対話的で深い学び」を実施し、生徒が社会で力強く生きていくための素養を育成していく。</p> <p>3 1人1台学習用端末の効果的な活用をはじめとしたICTの有効活用を進め、深い学びを実践していく。</p> <p>4 教職員にとってはもちろん、子どもたちに豊かな教育をおこなうためにも働き方改革を進めていく。</p> <p>5 防災意識を高め、学校が生徒及び教職員にとって安心安全な教育の場であり続けるように努めていく。</p>	<p>1 学力の向上と希望進路の実現</p> <p>(1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、確かな学力を育む。</p> <p>(2) ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。</p> <p>(3) 自ら目標を設定させ、主体的に学習に向かう姿勢を育むことにより、一人ひとりの希望進路実現を目指す。</p> <p>2 特色ある取組の充実</p> <p>(1) 普通科「みらい考」や文理科学科「みらい学」をより一層充実させ、社会や地域の課題を自分事として捉え、課題解決に向けて行動する姿勢を養う。</p> <p>(2) 「スーパーサイエンスネットワーク京都」校として、理数系教育の充実を図る。</p> <p>(3) WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)事業の成果を活かし国際理解教育の機会を充実させグローバル人材の育成を図る。</p> <p>(4) 医学進学・教員養成・国際理解・地域連携の各プログラムをはじめとするキャリア教育を充実させ、将来や社会への理解を深め、進路意識を高める。</p> <p>3 豊かな心を育む教育の実現</p> <p>人権意識を高め、自他を敬愛する心やいのちを大切にすること、公共性や社会貢献の精神を育み、共生社会に必要な力を育成する。</p> <p>4 学校組織の改善と見直し</p> <p>教職員の資質・能力及び学校全体の教育力向上のため、中高各分掌・教科の在り方を含めた業務改善と効率化を図る。</p> <p>5 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり</p> <p>全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち、日々の点検に努め、適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応など、生徒保護者・教職員が共通認識をもつことにより、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。</p> <p>6 家庭・地域・関係機関との連携の強化</p> <p>(1) 積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。</p> <p>(2) 地域連携やボランティア活動等を通して、地域や社会の一員であることをことを自覚させ、使命感を持たせる。</p> <p>7 中高一貫教育の推進</p> <p>中高6年間を見据えて資質・能力を育成するとともに、中高一貫教育校のよさを活かして全体の活性化を図る。</p>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題																
組織・運営	<p>これからの社会で必要とされる資質、能力育成のための「主体的・対話的で深い学び」の実現及び理数教育の充実を図るとともに、B Y O D等のICT有効活用を組織的に取り組み推進する。</p>	<p>みらい考やみらい学をはじめとする教育活動全般を通して「主体的・対話的で深い学び」を実践するとともに科学的な探究活動を通じて理数教育の充実を図る。また、ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。</p> <p>[主体的・対話的で深い学びを実践したという割合]</p> <table border="1" data-bbox="831 408 1408 480"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>75%以上</td> <td>74～60%</td> <td>59～45%</td> <td>44%以下</td> </tr> </table> <hr/> <p>[ICTを授業等で積極的に活用したという割合]</p> <table border="1" data-bbox="831 552 1408 624"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>75%以上</td> <td>74～60%</td> <td>59～45%</td> <td>44%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	75%以上	74～60%	59～45%	44%以下	A	B	C	D	75%以上	74～60%	59～45%	44%以下			
A	B	C	D																		
75%以上	74～60%	59～45%	44%以下																		
A	B	C	D																		
75%以上	74～60%	59～45%	44%以下																		
	<p>生徒の確かな学力を育むための教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のために、中高の連携及び分掌や教科、個人の連携を密にし、教育活動に取り組む。</p>	<p>学習や生徒指導、学校運営等において、附属中を含む各教科や各分掌、個人間で連携を深め、教育活動及び業務の改善化を図るとともに、個々の教職員の資質・能力の向上に繋げる。</p> <p>[自己の資質・能力が向上したと実感した割合]</p> <table border="1" data-bbox="831 836 1408 908"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>75%以上</td> <td>74～60%</td> <td>59～45%</td> <td>44%以下</td> </tr> </table> <hr/> <p>[学校評価アンケート『[附属中と福高のコラボ]に関するプラス評価の平均値]</p> <table border="1" data-bbox="831 1019 1408 1091"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>75%以上</td> <td>74～60%</td> <td>59～45%</td> <td>44%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	75%以上	74～60%	59～45%	44%以下	A	B	C	D	75%以上	74～60%	59～45%	44%以下			
A	B	C	D																		
75%以上	74～60%	59～45%	44%以下																		
A	B	C	D																		
75%以上	74～60%	59～45%	44%以下																		
	<p>学校の魅力を高めるとともに、その魅力を生徒・保護者が実感できるものとする。また、その魅力を外部に効果的に発信する。</p>	<p>授業や課外活動、特色ある取組を更に充実させ生徒・保護者にとって充実感を感じるものとする。また、その魅力を様々な手法を用いて地域の方々に効果的に発信していく。</p> <p>[学校評価アンケート『本校の取組が十分に発信されている』の評価のプラス評価の平均値]</p> <table border="1" data-bbox="831 1350 1408 1422"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>75%以上</td> <td>74～60%</td> <td>59～45%</td> <td>44%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	75%以上	74～60%	59～45%	44%以下											
A	B	C	D																		
75%以上	74～60%	59～45%	44%以下																		

教務部	<p>学力向上に向け、授業改善と主体的な学習態度の育成に努める。</p>	<p>学力向上のため学年部と連携し、ガイダンスを積極的に実施する。指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。 [授業アンケート（自己評価アンケート）中の『自分は、自分の学習活動を振り返り、工夫や改善をしながら、粘り強く取り組んでいる』『授業の準備をし、意欲的に取り組んでいる』の項目の平均]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.0～3.5</td> <td>2.5～2.9</td> <td>2.4以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下			
	A	B	C	D									
	3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下									
<p>新教育課程2年目となり、生徒が『主体的、対話的で深い学び』を実感し、学力の伸長の実現のため、情報提供や研修を進める。</p>	<p>学習指導の改善が生徒の学習意欲・学力向上に繋がるよう、校内での研修の機会を増やし、各教科間や分掌、学校全体で教育力向上を目指す。 [学校評価アンケート（生徒）の学力向上に関する取組のプラス評価の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>98%以上</td> <td>94%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	98%以上	94%以上	90%以上	90%未満				
A	B	C	D										
98%以上	94%以上	90%以上	90%未満										
<p>個に応じた指導を大切にし、成績不振による単位不認定をなくす。</p>	<p>丁寧な学習指導や個に応じた指導を進め、成績不振による単位不認定者をなくす。長期休業中の補充授業をより効果的な取組に改善する。 [成績不振による単位不認定者数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>1～2人</td> <td>3～4人</td> <td>5人以上</td> </tr> </table>	A	B	C	D	0人	1～2人	3～4人	5人以上				
A	B	C	D										
0人	1～2人	3～4人	5人以上										
生徒指導部	<p>安定した学校生活が進路実現につながるという観点に立ち、特に時間管理(遅刻指導)と社会的なマナー・意識(身だしなみ等)の向上を図る。</p>	<p>・【遅刻指導】学年部と連携しながら多角的に指導することで、余裕をもった登校を促す。 ・【あいさつ指導】全教職員が協力し指導することで、身だしなみを整え、積極的にあいさつができる生徒に育てる。 [学校評価アンケート『規範意識・挨拶・マナーは向上しているか』におけるプラス評価の平均値]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	49%以下			
A	B	C	D										
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下										

	<p>携帯情報端末、特にSNSの利用などにおける情報モラルに関する規範意識を高める。 [HR掲示や放送、集会などを利用し情報モラルに関する啓発活動を行う回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回以上</td> <td>9～8回</td> <td>7～6回</td> <td>5回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10回以上	9～8回	7～6回	5回以下			
A	B	C	D									
10回以上	9～8回	7～6回	5回以下									
<p>学校生活が安心、安全なものとなるよう、特に交通安全について意識の向上を図る。</p>	<p>交通事故を防止し、交通マナーの向上を進める啓発活動を継続的に行う。 [学校評価アンケート『通学マナーはよいか』における生徒・保護者の平均値]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～60%</td> <td>59～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～50%	49%以下			
A	B	C	D									
80%以上	79～60%	59～50%	49%以下									
<p>「5K力」の育成のため、特別活動（生徒会活動・部活動・ボランティア活動）の活性化を図り、将来、地域社会を支える自覚と創造力を兼ね備えた使命感を持たせる。</p>	<p>生徒会執行部の活動を活発化させ、生徒が中心となる生徒会活動(特に福高祭)を充実させる。多くの生徒がボランティアに参加できる機会を増やす。 [学校評価アンケート『部活動・ボランティア・学校行事の充実度』における生徒・保護者の平均値]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	49%以下			
A	B	C	D									
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下									
<p>進路指導部</p> <p>生徒が希望進路の実現に向けて前向きな姿勢で歩み、自ら考え、行動する力を育てられるような進路指導を行う。</p>	<p>第3学年部や教科担当者との連携を密にして生徒の希望進路実現を図る [進路希望調査(4月)で国公立大学を志望した生徒の国公立大学] 合格率</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>60%以上</td> <td>59～50%</td> <td>49～40%</td> <td>40%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	60%以上	59～50%	49～40%	40%未満			
A	B	C	D									
60%以上	59～50%	49～40%	40%未満									
<p>1、2年生の進路意識を向上させる。</p>	<p>夢を抱いて頑張る生徒を育成する。 [11月実施の1・2年生進路希望調査で、未定と回答する生徒の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0～3%</td> <td>3%～5%</td> <td>5%～7%</td> <td>7%以上</td> </tr> </table>	A	B	C	D	0～3%	3%～5%	5%～7%	7%以上			
A	B	C	D									
0～3%	3%～5%	5%～7%	7%以上									

保健部	<p>生徒が健やかで安心・安全な学校生活を送ることができるよう、自らの健康や安全に対する意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病気や怪我の予防に関する取組を積極的に行う。特に、メンタルヘルスに関する支援の充実、運動時及び部活動時の災害防止に努める。</li> <li>・定期的に「ほけんだより」、「安全だより」を発行し、健康、安全に関する注意喚起を行う。</li> <li>・健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。</li> </ul> <p>[安全だよりの発行部数を増加]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8部以上</td> <td>6・7部</td> <td>4・5部</td> <td>3部以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8部以上	6・7部	4・5部	3部以下			
	A	B	C	D									
8部以上	6・7部	4・5部	3部以下										
	<p>環境教育の充実を図り、校内美化に対する意識を高め、学習環境作りに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室、トイレ、廊下等、校内の清掃、また感染症予防のための消毒を確実にを行い、校内の衛生管理に努める。</li> <li>・保健委員による教室の衛生管理、清掃点検、安全点検等の取組を定期的に行う。</li> </ul> <p>[保健委員の取組の数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8回以上</td> <td>6・7回</td> <td>4・5回</td> <td>3回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	6・7回	4・5回	3回未満			
A	B	C	D										
8回以上	6・7回	4・5回	3回未満										
人権教育部	<p>様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。</p>	<p>学年部や他分掌との連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。</p> <p>[学校評価アンケート 生徒全員の人権学習に対するプラス評価平均]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>75%以上</td> <td>75%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	75%以上	75%未満			
	A	B	C	D									
90%以上	80%以上	75%以上	75%未満										
	<p>各種援護制度の周知と活用を図り、就・修学の保障に努める。</p>	<p>援護制度について、広報や説明会を充実させる。</p> <p>[さくら連絡網の活用と説明会の実施]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8回以上</td> <td>7～5回</td> <td>4～2回</td> <td>1回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	7～5回	4～2回	1回以下			
A	B	C	D										
8回以上	7～5回	4～2回	1回以下										

	教職員の人権意識の高揚を図り、指導力の向上に努める。	<p>教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図る。</p> <p>[教職員人権研修の実施]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3回	2回	1回	0回				
A	B	C	D											
3回	2回	1回	0回											
総務企画部	<p>本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を地域の方や中学生またその保護者等に正しく知ってもらえるよう広報誌(福高だより、学校案内)やホームページ等による情報発信、各種説明会を工夫し、発展させる。また本校生徒・保護者に対しても同様に本校の取組等をこれまで以上に知ってもらおうホームページ等の更新に努める。</p>	<p>在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらうように、分掌内外の連携を強化し、ホームページ等を媒体に積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。</p> <p>[学校評価アンケート「ホームページ等 広報」におけるプラス評価の割合(全学年の平均値)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満				
	A	B	C	D										
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満											
	<p>分掌内外の連携を密にし、高校と附属中学校の広報や生徒募集を有機的に機能させる。</p>	<p>ホームページや広報誌(福高だより)、中学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容をより充実させることで本校の魅力を正しく知ってもらうよう努め本校全体の志願者の増加を目指す。</p> <p>[普通科の志願者数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>前年比 +20%以上</td> <td>前年比 +10~20%未満</td> <td>前年比 +1~10%未満</td> <td>前年比 0%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	前年比 +20%以上	前年比 +10~20%未満	前年比 +1~10%未満	前年比 0%以下				
A	B	C	D											
前年比 +20%以上	前年比 +10~20%未満	前年比 +1~10%未満	前年比 0%以下											
		<p>部会を定期的に開催し、日常的に部内の意思疎通を図ることで、部全体が共通認識を持ち、協力体制のもと業務に取り組んでいけるよう努める。</p> <p>[分掌会議の実施回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>40回以上</td> <td>35回以上</td> <td>30回以上</td> <td>30回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	40回以上	35回以上	30回以上	30回未満				
A	B	C	D											
40回以上	35回以上	30回以上	30回未満											
みらい探究部	<p>普通科の総合的な探究の時間「みらい考」について、昨年度に確立した学習計画、探究のサイクルをブラッシュアップし、「課題解決実</p>	<p>普通科の探究的な学習の時間の内容を計画・実施し、課題設定力・課題解決力・表現力の育成を組織的・系統的に実施する。</p> <p>【課題解決実践を通して積極的に社会に対して行</p>												

	<p>践」が円滑に進められ、その内容が進路実現に繋がる取組とする。</p>	<p>動することができたと感じた人数の割合】</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	70%以上	60%以上	50%以上	50%未満			
A	B	C	D										
70%以上	60%以上	50%以上	50%未満										
	<p>文理科学科の総合的な探究の時間「みらい学」での研究活動の充実を図り、各研究活動を通して「課題研究リテラシー」の向上、研究内容の充実・深化をはかる。</p>	<p>課題研究に必要なスキル（研究や発表の仕方、情報やデータの処理、評価の方法等）を身に付けるプログラムの工夫・改善を進め、探究課題を科学的に思考・吟味し活用する力を育成するため、外部と積極的に繋がる。</p> <p>【課題研究を通して繋がった外部機関の数】</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10以上</td> <td>7以上</td> <td>5以上</td> <td>5未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10以上	7以上	5以上	5未満			
A	B	C	D										
10以上	7以上	5以上	5未満										
	<p>土曜講座、キャリアプログラム(国際理解・地域連携)、WWL後継事業、SSN等の取組を、主体的で協働的な学びの環境として効果的に提供し、これからの新しい時代を生きていくための幅広い学力をつける。</p>	<p>各取組について、総合的な探究の時間を軸に教科や分掌と連携して計画・実施し、生徒に新しい価値を見つけ生み出す感性と力を付け、好奇心と行動力の向上をはかる。</p> <p>【自らの進路実現に向け、役立つ学びを能動的に得ることが出来たと感じた人数の割合】</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>85%以上</td> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	85%以上	80%以上	70%以上	70%未満			
A	B	C	D										
85%以上	80%以上	70%以上	70%未満										
図書 視聴覚部	<p>読書活動を推進し、5つの力を基盤とした「知識に裏付けされた判断力」「豊かな表現力」「感性を磨く力」を育成する。</p>	<p>学年、分掌、教科と連携し、図書館活用の機会を増やすとともに、活用内容の充実を図る。 〔授業での図書館活用回数（みらい学を除く）〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>40回以上</td> <td>30～39回</td> <td>20～29回</td> <td>19回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	40回以上	30～39回	20～29回	19回以下			
A	B	C	D										
40回以上	30～39回	20～29回	19回以下										
	<p>P T A活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。</p>	<p>P T A活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。学校行事やP T A活動について「さくら連絡網」を活用した、継続的かつ安定的な情報発信を行うとともに機能充実に努める。 〔保護者対象学校評価アンケートのP T A活動に対するプラス評価〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>60～69%</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	60～69%	60%未満			
A	B	C	D										
80%以上	70～79%	60～69%	60%未満										

第1学年部	<p>思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、基礎的な学力を身につけさせる（感じる力、考える力）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃や整理整頓を心がけ、学習環境を整えさせつつ、家庭学習の習慣を早期に確立させる。</li> <li>・授業を大切に、予習と復習のサイクルを確立させる。また、苦手教科の克服に取り組ませる。</li> </ul> <p>[1年生全体の評定平均値の平均]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.2以上</td> <td>4.1～3.8</td> <td>3.7～3.4</td> <td>3.3以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	4.2以上	4.1～3.8	3.7～3.4	3.3以下											
	A	B	C	D																	
	4.2以上	4.1～3.8	3.7～3.4	3.3以下																	
<p>自己理解を深め、自らの目標を立て、向上心を持って行動させる。(行動する力、向上する力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書習慣を身につけさせる。</li> <li>・個人面談を重視し、進路目標を明確にさせる。</li> <li>・部活動や諸活動への積極的な参加を促す。</li> </ul> <p>[第2回進路希望調査での進路未定者数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0人</td> <td>1～6人</td> <td>7～12人</td> <td>13人以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	0人	1～6人	7～12人	13人以上												
A	B	C	D																		
0人	1～6人	7～12人	13人以上																		
<p>他人を思いやり、協働する態度を育てる。(関わる力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつを奨励し、日常的なマナーを身につけさせる。</li> <li>・学校行事や、クラスでの活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を見つけさせる。</li> <li>・常に相手の気持ちを考えて、他者に優しい行動を取らせる。</li> </ul> <p>[学校生活の様々な場面で、挨拶を含めたマナーを身につけ、他者と協働して取り組んだ生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%～90%</td> <td>89%～70%</td> <td>69%～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%～90%	89%～70%	69%～50%	49%以下												
A	B	C	D																		
100%～90%	89%～70%	69%～50%	49%以下																		
第2学年部	<p>思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、基礎的な学力を定着させる。(感じる力、考える力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を大切に、予習と復習のサイクルを確立させる。</li> <li>・苦手教科の克服に取り組ませる。</li> </ul> <p>[2年生全体の評定平均値の平均]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.2以上</td> <td>4.1～3.9</td> <td>3.8～3.5</td> <td>3.4以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>[苦手科目の克服に取り組んでいる生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%～90%</td> <td>89%～80%</td> <td>79%～70%</td> <td>69%以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</p>	A	B	C	D	4.2以上	4.1～3.9	3.8～3.5	3.4以下	A	B	C	D	100%～90%	89%～80%	79%～70%	69%以下			
A	B	C	D																		
4.2以上	4.1～3.9	3.8～3.5	3.4以下																		
A	B	C	D																		
100%～90%	89%～80%	79%～70%	69%以下																		



<p>自己理解を深め、自らの目標を立て、進路実現に向けて主体的に行動させる（行動する力、向上する力）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスや学校説明会への積極的参加を促し、進路目標を具体化させる。</li> <li>・個人面談、進路検討会を充実し、進路意識の高揚をはかる。</li> </ul> <p>〔第2回進路希望調査での進路未定者数〕</p> <table border="1" data-bbox="792 309 1357 379"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>1～6人</td> <td>7～12人</td> <td>13人以上</td> </tr> </table> <p>※評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</p>	A	B	C	D	0人	1～6人	7～12人	13人以上											
A	B	C	D																	
0人	1～6人	7～12人	13人以上																	
<p>他人を思いやり、協働する態度を育てる（関わる力）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や、クラスでの活動、部活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を見つけさせる。</li> <li>・常に相手の気持ちを考えて、他者に優しい行動を取らせる。</li> <li>・ボランティア活動への参加を促す。</li> </ul> <p>〔学校生活の諸活動の中で、自己の役割を見つけ、取り組むことができた生徒の割合〕</p> <table border="1" data-bbox="792 724 1370 794"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%～90%</td> <td>89%～70%</td> <td>69%～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table> <p>※評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</p>	A	B	C	D	100%～90%	89%～70%	69%～50%	49%以下											
A	B	C	D																	
100%～90%	89%～70%	69%～50%	49%以下																	
<p>第3学年部</p> <p>希望進路の実現に向けて生徒一人一人が前向きな姿勢で歩み、自ら考え、行動する力を育てられるような進路指導を行う。</p>	<p>自己の課題を認識させ、短期目標を設定させるなどして、苦手科目の克服に取り組ませる。</p> <p>模擬試験での得点向上を目指した学習計画を立てさせ、入試に向けての意識を高めさせる。</p> <p>〔学年全体の6月進研共通テ模試平均偏差値(英・数・国)〕</p> <table border="1" data-bbox="792 1082 1357 1152"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>58.0以上</td> <td>55.0以上</td> <td>52.0以上</td> <td>52.0未満</td> </tr> </table> <p>〔6月進研共通テスト模試A3以上の人数の平均(英・数・国)〕</p> <table border="1" data-bbox="792 1190 1357 1260"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>130人以上</td> <td>100人以上</td> <td>70人以上</td> <td>70人未満</td> </tr> </table> <p>生徒との面談に重点を置き、関係分掌や教科担当者との連携を密にして、生徒の希望進路実現を図る。</p>	A	B	C	D	58.0以上	55.0以上	52.0以上	52.0未満	A	B	C	D	130人以上	100人以上	70人以上	70人未満			
A	B	C	D																	
58.0以上	55.0以上	52.0以上	52.0未満																	
A	B	C	D																	
130人以上	100人以上	70人以上	70人未満																	

		<p>[進路希望調査(4月)で国公立大を志望した生徒の国公立大合格率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%以上</td> <td>59~50%</td> <td>49~40%</td> <td>40%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60%以上	59~50%	49~40%	40%未満											
A	B	C	D																		
60%以上	59~50%	49~40%	40%未満																		
	<p>最高学年としての自覚を持たせ、周囲との関わりを大切にしながらリーダーシップが発揮できる生徒を育てる。</p>	<p>部活動や学校行事等に主体的かつ積極的に関わらせ、福知山高校全体を牽引させる。 [学校評価アンケートで「部活動」および「学校行事」でプラス評価の生徒割合の平均]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85%以上</td> <td>84~70%</td> <td>69~60%</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>[学校評価アンケートで「福高への誇り」の項目がプラス評価の生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87%以上</td> <td>86~72%</td> <td>71~60%</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	85%以上	84~70%	69~60%	60%未満	A	B	C	D	87%以上	86~72%	71~60%	60%未満			
A	B	C	D																		
85%以上	84~70%	69~60%	60%未満																		
A	B	C	D																		
87%以上	86~72%	71~60%	60%未満																		
事務部	<p>安心・安全な学校を維持し、管理を徹底する。</p>	<p>危機管理意識を持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。 [危険箇所に対する改修率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89~70%</td> <td>69~50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89~70%	69~50%	50%未満											
A	B	C	D																		
90%以上	89~70%	69~50%	50%未満																		
	<p>学校経営方針を推進するため、各分掌・教科と連携し、効果的な予算執行を行う。</p>	<p>各分掌・教科と連携を密にし、教育的効果のある予算執行を行う。学校経営を推進し、本校教育に即した予算計画を立案し、確実に執行する。 [教科・分掌の予算執行満足度]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89~70%</td> <td>69~50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89~70%	69~50%	50%未満											
A	B	C	D																		
90%以上	89~70%	69~50%	50%未満																		
	<p>丁寧、的確及び迅速な窓口業務・電話対応を行う。</p>	<p>府民との窓口になる対応を、丁寧かつ的確、迅速に行い、円滑な学校運営に努める。</p>																			
国語科	<p>新学習指導要領や観点別評価への対応に取り組むとともに、ICTの授業での有効活用を努める。</p>	<p>教科内での授業研究や、学校外での研修会への参加を積極的に行い、次の事項を推進する。</p>																			

①タブレット等ICT機器の、授業での有効活用  
 ②新学習指導要領に即した教科指導力の向上  
 ③観点別評価への対応  
 [研修会等への年間参加回数] (悉皆研修を除く)

A	B	C	D
20回以上	16回以上	12回以上	8回以下

(R4年度 20回)

生徒の言語文化に対する関心を深め、「知識・技能」の定着を図る。

「知識・技能」の定着を目指して、小テストや  
 考査等に意欲的に取り組ませる。  
 [「現代の国語」「論理国語・文学国語・現代文  
 芸」における、第1観点の平均が70%以上であっ  
 た学年] ※第3学年については、漢字・現代文語  
 彙テストが80%以上であったかで評価する

A	B	C	D
3学年	2学年	1学年	なし

(R4年度 1年72%、2年78%、3年84%)

[「言語文化」「古典探究・古典文学研究」にお  
 ける、第1観点の平均が60%以上であった学年]  
 ※第3学年については、古文単語・古典文法テス  
 トの平均が70%以上であったかで評価する

A	B	C	D
3学年	2学年	1学年	なし

(R4年度 1年58%、2年83%、3年85%)

地歴公民科

生徒個々にあわせた希望進路を  
 実現するために必要とされる学力  
 を向上させ、社会的役割の自覚と  
 ともに、自立した学習習慣を確立  
 することに努める。

学習事項の基礎基本を確実に定着させ、生徒の学力の向上  
 に努める。

[3年生大学入学共通テスト平均の対全国平均値]

A	B	C	D
+6点以上	+5点以上	+4点以上	+3点未満

生徒が主体的に物事を考察し、課題を発見できる教育を進  
 める。

[発展的な課題発見授業・講演会等の実施数]

A	B	C	D
6回以上	5・4回	3・2回	1回

生徒の学習意欲を高めるため、教科内で連携をとり、各人が「主

体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を実施できるように努める。また、観点別評価における「指導と評価の一体化」を推進する。

「主体的・対話的で深い学び」のための効果的な指導方法の確立に向けて研究授業を実施し、研究協議を行う。

[テーマに関する研究授業と研究協議の実施回数]

A	B	C	D
6回以上	5回	4回	3回以下

[授業アンケートの中の「先生の教え方に工夫が感じられ、自分自身の理解が深められている」に対する生徒の自己評価の平均]

A	B	C	D
3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下

数学科

主体的な態度で粘り強く学習に励む生徒を育成し、希望進路に対応できる学力を養成する。

<1年生> 学習状況の把握と丁寧な指導を行い基礎学力の定着を図る。

[全員模試の平均偏差値の差(1月-7月)]

A	B	C	D
3以上	3～0	0～-3	-3未満

<2年生> 学習方法を指導することにより、個々の学習スタイルを確立させ、主体的に学習に励む生徒を育てる。

[全員模試の平均偏差値の差(11月-7月)]

A	B	C	D
3以上	3～0	0～-3	-3未満

<3年生> 日々の授業に加え、共通テスト対策演習やにじゼミ等により、希望進路実現に必要な学力を充実させる。

[大学入学共通テスト 数学I A 対全国平均]

A	B	C	D
4点以上	4～2点	2～0点	0点未満

学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。

ICTの活用についての交流を図る。

A	B	C	D
図れた	まあまあ図れた	あまり図れなかった	図れなかった

理 科	<p>生徒の希望進路実現に向け、基礎学力の定着並びに思考力、判断力、表現力の育成に努める。</p>	<p>基礎学力を確実に定着させ、生徒全員の進路保障に努める。積極的な授業改善や個に応じた指導内容の工夫を行い、希望進路に応じた学力の充実に努める。</p> <p>[大学入学共通テストの対全国平均点]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>7点以上</td> <td>5点以上</td> <td>3点以上</td> <td>3点未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	7点以上	5点以上	3点以上	3点未満			
	A	B	C	D									
7点以上	5点以上	3点以上	3点未満										
		<p>1・2年生においては教科内だけでなく他教科とも実践事例や情報を共有し、学習用端末の活用を推進する。</p> <p>[1・2年生で学習用端末を活用した授業の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> <td>30%以上</td> <td>30%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	70%以上	50%以上	30%以上	30%未満			
A	B	C	D										
70%以上	50%以上	30%以上	30%未満										
	<p>「スーパーサイエンスネットワーク京都」指定校としての取組を生かした本校独自の科学研究プログラムを構築する。 探究活動の成果を外部機関主催の科学コンテスト等で発表し、科学的探究能力やプレゼンテーション能力の向上を図る。</p>	<p>[外部機関主催の発表会で発表した件数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10件以上</td> <td>7件以上</td> <td>5件以上</td> <td>5件未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10件以上	7件以上	5件以上	5件未満			
A	B	C	D										
10件以上	7件以上	5件以上	5件未満										
保健体育科	<p>&lt;体力の向上を図る&gt; 本校生徒の体力は、京都府平均と比較しても、筋力・柔軟性について劣る傾向があるため、体育授業により特にこれらの体力向上を目指すとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p>	<p>年間を通じた体力向上をねらいとし、各種目で補強運動やトレーニング的な動作及びストレッチや柔軟運動を意識した授業を推進する。</p> <p>[3学期の授業時において、上体起こしを測定（1・2年男女）し、4月のスポーツテスト時から上昇した人数割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>60%以上</td> <td>59～50%</td> <td>49～40%</td> <td>39%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	60%以上	59～50%	49～40%	39%以下			
	A	B	C	D									
60%以上	59～50%	49～40%	39%以下										
	<p>&lt;新学習指導要領に即した授業改善&gt; 積極的にICTの活用するなど、効果的な授業方法を検討し、「知識・</p>	<p>それぞれが行った改善点について科内で共有し、目指す力の育成に効果的な授業方法について検討する。[教科会議等で授業改善について検討した回数（1年間）]</p>											

技能]「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す。

A	B	C	D
21回以上	16～20回	11～15回	10回以下

＜運動部活動の活性化＞

部活動を通して自己管理能力の育成を図るとともに、責任感、連帯感の涵養、好ましい人間関係の育成し、自己肯定感を高める。また、各部活動間の交流を推進し、積極的に物事に取り組む姿勢を学校全体に広げていく。

福知山高校運動部としての意識を高め、日常生活において挨拶や礼儀等を身に付けるなど、他の模範となる質の高い集団となるよう働きかける。

[キャプテン集合の回数]

A	B	C	D
10回以上	7～9回	6～4回	4回以下

芸術科

芸術に関わる幅広い活動を通し、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てると共に、感性を高め芸術の諸能力や技能を伸ばし、芸術文化に対しての理解を深め、豊かな情操を養う。

＜音楽＞音楽の幅広い活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽・音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。

[授業アンケートで「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合]

A	B	C	D
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下

＜美術＞鑑賞・表現の授業改善を行い、見方や感じ方を深め生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。

[表現の授業において、ICTを活用した授業改善を行った回数]

A	B	C	D
10回以上	9～7回	6～3回	2回以下

＜書道＞主体的・対話的で深い学びの中から、本校が目指す生徒像を目標に、生徒の育成が推進できるよう授業改善に努める。授業内容と指導方法の改善により生徒の達成感を高める取組を推進する。

[授業アンケートより、「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合(回答4)]

A	B	C	D
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下

英語科	多様かつハイレベルな進路希望に対応できる基礎から応用までの幅広い学力を養成する。	<p>家庭学習指導の徹底、課題への取組、模試の復習を通じて、学力の向上を図る。</p> <p>[3年生共通テスト平均点の対全国平均値]</p> <p>*リーディング100点+リスニング100点の計200点満点</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>+20点以上</td> <td>+19~10点</td> <td>+9~0点</td> <td>マイナス</td> </tr> </table>	A	B	C	D	+20点以上	+19~10点	+9~0点	マイナス			
	A	B	C	D									
+20点以上	+19~10点	+9~0点	マイナス										
	「主体的、対話的で深い学び」の視点に立ち、生徒の確かな学力を育むための授業改善に取り組む。	<p>新学習指導要領に即した授業や評価を実践すると同時に、ICT機器を効果的に利用したより効果的な指導を実現するため、教科内で一致して研修を進める。</p> <p>[新学習指導要領やICT活用に関する教科内研修の回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6回以上</td> <td>5~4回</td> <td>3~2回</td> <td>1回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6回以上	5~4回	3~2回	1回以下			
A	B	C	D										
6回以上	5~4回	3~2回	1回以下										
家庭科	実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する指導の工夫改善を図る。	<p>授業ごとのねらいを明確にし、実習等の実践的・体験的な活動や問題解決的な学習の充実を図るとともに5 K力に基づいた振り返りを行う。</p> <p>[5 K力に基づいた振り返りの実施回数(割合)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79~60%</td> <td>59~50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79~60%	59~50%	49%以下			
		A	B	C	D								
80%以上	79~60%	59~50%	49%以下										
	<p>「子育て学習プログラム」の実施を通して生徒の出産・子育て・人生設計について生徒の変容が見られる授業の工夫を行う。</p> <p>[意識の変容が見られたと解答した生徒(割合)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79~60%</td> <td>59~50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79~60%	59~50%	49%以下				
A	B	C	D										
80%以上	79~60%	59~50%	49%以下										

学校運営協議会 による評価	
------------------	--

次年度に向けた 改善の方向性	
-------------------	--